

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第68期第2四半期累計期間(2015年4月1日から2015年9月30日まで)につきましては、長期収載品の売上が後発品使用促進策の影響などから減少となったものの、主要新製品はおおむね堅調に伸長しました。また、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」の欧米での売上拡大に伴いライセンス収入が増加したことから当初の計画を上回り増収となりました。また、退職給付制度改定に伴う人件費の減少や営業活動費用が前年同期比で減少したことなどにより、販売費及び一般管理費が減少し、増益となりました。

国内の医薬品市場においては、新薬創製成功率の低下や研究開発費の増大に加え、後発品使用促進策に新たな数量シェア目標が設定されるなど、今後も医療費抑制策が推進され、厳しい状況が続くものと思われます。

このような事業環境のなか、当社は、新薬開発型医薬品企業として持続的な発展を実現するために、「開発パイプラインの拡充」、「海外展開の推進」に取り組むとともに、「企業基盤の強化」に努めています。



三つの経営課題に対する取り組み

開発パイプラインの拡充	持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出すことが不可欠です。創薬においては、オープン・イノベーションを推進し、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速しつつ、事業戦略性の高い、あるいは医療ニーズの大きい疾患に対する有望な新薬候補化合物の導入に引き続き注力していくことで、今後も継続的な新薬上市に努めます。また、臨床試験においては、新薬開発のスピードアップにも努めます。
海外展開の推進	自社創製の新薬を世界中の患者さんにお届けできるよう、海外での臨床開発を推進するとともに、海外提携企業への導出を通じ、自社創製化合物の上市を目指してグローバルな事業展開を進めます。抗がん剤などスペシャリティー製品については、自社販売を進めていくためにアジアから基盤づくりに取り組んでおり、引き続き海外での事業拠点を整備していきます。
企業基盤の強化	グローバルレベルでの競争力向上のため、人財の育成と活性化、事業のスピードアップに努めます。また、多様性の向上やさまざまな環境変化への対応を図ります。さらに、CSR活動については、「コーポレートガバナンス」「革新的な医薬品」「人財・人権」「環境」「公正な事業環境」「社会」を重点領域として位置づけ、活動を推進することで、一層の充実に取り組みます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁